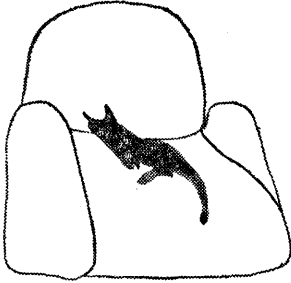


ため、そこにもまたフロントが発生する。地球を取り巻く大気を眺めると、あちらこちらにフロントが存在し、停滞したり、激しく活動したりしている。同じく地球上に存在する国と国との間のフロントにも停滞的なものと活動的なものがある。

このままでは、人類の危機はいつまでたってもなくなるらない。一度不連続な個体に戻し、再構成のうえ、一つの連続体を作りあげ、せめて人類の世界からだけは不連続をなくしたいものである。

(お茶の水女子大学)



木の裂け目

大橋利恵子

園舎新築の為に仮園舎で生活していた頃のことです。園舎のすぐそばに、いちょうの木があり、その根元に子どもが手を入れるのにちょうどよい裂け目がありました。ある日、K君と2、3人の女子たちが運動場の土をそぎとり、固いおだんご作りにはげんでいました。水をつけて固め、かわいた砂をかけてはまた水をつけて、おだんごは着実に固くなっていきます。手でこするたびに黒びかりするおだんごはまさに「宝物」です。そのうちにK君が何を思ったか、突然、そ

の裂け目におだんごを入れ、「これ、冷蔵庫、中でおだんごが固くなるんだ」と言いだしました。しばらくして、おもむろにおだんごを取り出すK君。「ほら、固くなつた。目をかがやかせて報告するK君につられて、女の子たちも次々にその冷蔵庫におだんごを入れはじめました。その作業がひととおり終わると、こんどは、その冷蔵庫が遊びの中心となり、いつしかおだんご作りはおうちごっこへと移っていったのでした。かたづけの合図があつて、みんながあわただしく動き始めると、K君を中心に女の子たちは、その冷蔵庫の中にだいたいなおだんごをしまつて保育室に帰って行きました。

よくある遊びですが、それを見ていた私はその裂け目が本当に大切な冷蔵庫のような気がしていた子どもたちの気持ちが変わってきたのでしょうか、すっかり、ファンタジックな気分にはなりました。木の裂け目は何故か、そこから入りこむと中には広い空間があるような錯覚をもたらします。そこから入っていくと、自分の好きな世界へ続いていて、すぐにそこにいける。その裂け

目がそんなトンネルの入り口だったら、どんなにすてきでしょう。

木の裂け目というより、木、そのものの話になります。が、さとうさとうさんのお話に、『おおきな木がほしい』という作品があります。おおきな、おおきな木があつて、一番下の枝までははしごで登ります。その次の枝までも、小さなはしごがついています。

「二つ目のえだにのぼると、木のみきに、ぼっかりほらあながあいているのです。ちょうどかおる（主人公の名前）がもぐりこめるぐらいのおおきさです。そこにはいるとほらあなはずつとうえのほうにつづいていきます。『ほらあなのなかにも、はしごをつけてあるんだよ』（中略）ほらあなのなかのはしごをせつせとのぼると……おや、いきなり、ちいさなかわいいへやのなかに、ひょっこりはいつてしまいます。」

かおるはその部屋で、お料理をしたり、本を読んだりします。木はさらに上の方に続いていて、ことりやりすの家があつたり、見はらし台があつたりする。そんな木

がほしいというお話なのですが、とてもほのぼのとした作品です。いかにも、実際にあり得ないことではないような気分になさせてくれます。そういわれてみると、どこでか、木の中にもぐりこめる大きな木があったような……。

まんがなどで大きな木の根元が動物の家になっていたり、トンネルになっていたりするのはよく見られます。現実には、ことりやりすが木の穴を利用して巣を作っていることはあるのでしょうか。残念なことに私は実際に見たことがありません。

一本の木の裂け目、そこをうまく利用していろいろな空想がなされ、遊びが展開される、なんとなく楽しいことではないでしょうか。幼稚園に本当に、かおるが考えたような大きな木があったら、なんとすてきなことでしよう。そんなことを思うのは、私がまだ幼いからでしょうか。でも、こんなファンタジックな世界を、そして、こんな想像性豊かな遊びを大切にしていきたいなと思う今日、このごろです。

(岐阜)

他者と共にいることが

嬉しい間柄を

杉田 稔

編集部から、不連続、亀裂、裂け目について寄稿を求められた。

ちょっと見廻せば、この世は到るところ分裂、対立だらけに見える。

国際間には米ソの対立、持てる国、持たざる国の対立、産油国対非産油国、イスラエルの国の存在を認めるかどうかをめぐるアラブ諸国間の分裂も耳新しいし、国内でも同和問題や障害者問題、自衛隊の存否をめ